人を抱く青

草壁焔太五行歌選歌集

遊子 編

市井社

草壁焔太五行歌選歌集

人を抱く青

遊子編

草壁焔太（くさかべ えんた）

1938年旧満州大連生まれ。1947年（9歳）小豆島に引揚げる。1956年（17歳）前川佐美雄の『日本歌人』に入門。1957年（19歳）五行歌創始。

東京大学文学部西洋哲学科卒。ライター編集などをしながら詩歌の活動に専念。

1994年五行歌の会創立。五行歌の会主宰。著書は「石川啄木―天才の自己形成」など文学評論、翻訳など多数。五行歌集は『穴のあいた麦わら帽子』『心の果て』『川の音がかすかにする』『海山』、五行歌論書は『もの思いの論―五行歌を形作ったもの』など。

遊子（ゆうこ）

本名、田沼（旧姓木村）まち子。

1947年福島県平市（現いわき市）生まれ、1965年福島県立磐城女子高校卒業、1969年千葉大学教育学部卒業。2000年五行歌の会入会、2002年長野県小諸市に「こもろ五行歌の会」を発会し代表となり、現在に至る。

草壁焔太五行歌選歌集　人を抱く青

編　者　遊子

発行人　三好叙子

発行所　株式会社　市井社

〒162-0843　東京都新宿区市谷田町三―一九　川辺ビル一階　TEL03-3267-7601

印刷・製本　創栄図書印刷株式会社

第一刷　二〇一五年三月二十五日

定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-88208-133-3 C0092

©2015 Enta Kusakabe, & Yuko

printed in Japan.

落丁本、乱丁本はお取り替えします。

目次

まえがき　草壁焔太　6
一　穴のあいた麦わら帽子　9
二　生きる花壇　13
三　詩業　21
四　思い　27
五　花　35
六　宇宙　45

七　生　53
八　川の音がかすかにする　67
九　寂　79
十　私の奥さん　85
十一　前川佐美雄先生　95
十二　父よ母よ　99
十三　恐竜のように歩め　103
十四　年月　111
十五　五行歌　119
十六　古典　129

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

十七　世界と抱擁　137
十八　明るい未来　159
十九　若者　167
二十　日本人　175
二十一　恋・男女　183
二十二　咆哮　189
二十三　富士　199
二十四　道　203
二十五　旅　211
二十六　東日本大震災　223

二十七　友　231
二十八　人を抱く青　239
あとがきにかえて　遊子　248
書作品一覧　254
作品メモ　257
五行歌の会について　264

装画　ヴォアザン
装丁　しづく

草壁焔太五行歌選歌集

人を抱く青

遊子編

目次

まえがき　草壁焔太　6
一　穴のあいた麦わら帽子　9
二　生きる花壇　13
三　詩業　21
四　思い　27
五　花　35
六　宇宙　45

七　生　53
八　川の音がかすかにする　67
九　寂　79
十　私の奥さん　85
十一　前川佐美雄先生　95
十二　父よ母よ　99
十三　恐竜のように歩め　103
十四　年月　111
十五　五行歌　119
十六　古典　129

十七　世界と抱擁　137
十八　明るい未来　159
十九　若者　167
二十　日本人　175
二十一　恋・男女　183
二十二　咆哮　189
二十三　富士　199
二十四　道　203
二十五　旅　211
二十六　東日本大震災　223

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

二十七　友　231
二十八　人を抱く青　239
あとがきにかえて　遊子　248
書作品一覧　254
作品メモ　257
五行歌の会について　264

装画　ヴォアザン
装丁　しづく

まえがき

草壁焔太

私はいままでに四冊の五行歌集を出しているが、入門書や編歌集などの出版に感けて、歌集の出版はいつも遅れがちであった。本来は、五冊目の歌集を出してもいい時期であるが、今回、選歌集としたのは、最初の頃の歌集を五行歌人たちがあまり読んでいないということに理由があった。

読まずにいろいろ言うのは困る。そこで選歌集を出す必要を感じていた。

こういうときに、こもろ歌会の遊子氏が、私の色紙を人に薦めるのに、簡単な六十首程度の選歌集を作られたのを見た。こういう熱心な方に歌を選んでいただければいいと思い、頼むと同時に刊行も早めることにした。

五行歌は今後、多くの方々に歌集、論集の出版を勧めていかなくてはならないが、こういう選歌集を編んでもらうのも、本の書き手を作る端緒としてなかなかいいと思った。

最初、私は二百首程度の選歌集を考えていたが、それでは少なすぎると思い始め、四百首に、ついには六百首程度にして、一ページ四首組みとすることにした。そうすれば、無理に削ることもない。

一月十五日、遊子さんに事務所へきてもらい、相当数増やして、歌集を作ることになった。私自身も追加したい歌を五十ほど選んだ。

それでも、当初、遊子さんの作った章分けはできるだけ壊さないようにした。「詩業」「若者」「私の奥さん」「五行歌」などは、私が選んでいたら、できなかった章であろう。概して、私の人生がわかりやすいものになった。

「五行歌」や「古典」の章は、遊子さんが予定していた前半より、かなり後半部に収容することにした。それから「恋」の章を作った。こうして、歌集は二十八章五七七首となり、満足いくものとなった。

全体にざわーっと立ち上がるような歌集となったと思う。最近、いろいろな方々

の歌集を作ると、そのざわーっと立つような、要素の多いものがいい。選歌集も、そういうものになったと思われた。

遊子さんには、昨年の五行歌全国大会から続いて、選歌集作りに励んでいただいた。今後も多くの方と、こういうスタイルで新著を出して行きたいと思う。

書名となった「人を抱く青」は昨年北海道の洞爺湖の山上を通ったときに書いた歌から取った。私にとって、最も嬉しかった旅の歌である。

二〇一五年一月三十日

一　穴のあいた麦わら帽子

君のまぶたに
小さな
太陽が動く
麦藁帽子に
穴があいているから

ギリシャ壺の
ひきしまった線は
君の
上半身（トルソ）
風をすりぬける

あの人の
しなやかな背を
抱きしめる
空の弧を
たぐりよせるように

花びらの
小さな
ふくらみに
あの人の指を
かくしてやるのだ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.